

ついでに「既存の単独槽を積極的に更新しよう」という動きは、活発とはいえない（道庁環境生活部）状況だ。

広報部長の上野眞之氏が基調講演。慶応大大学院教授の林美香子氏がコーディネーターを務め、有識者4人がパネルディスカッションをする。

道と独立行政法人科学技術振興機構（JST）は、21日午後2時からKKRホテル札幌で「科学技術週間セミナー」北海

道とJSTが21日に科学技術週間セミナー

年10月に締結。以来、経済への寄与を目的とした研究開発に共同で取り組んでいる。

参加申し込みと問い合わせは道総合政策部科学技術振興課、電話011(204)5126まで。

最優秀作1点(賞金5万円)と、優秀作2点(賞金各3万円)を選びます。奮って応募ください。締め切りは4月9日(郵便は9日付消印有効)。

道外と変わらぬ発電量実証

北海道経済産業局は、ほくでんエナジー

(本社・札幌)や江別市を設け、このほか、いずみ野小隣接地に20度から60度の範囲で傾斜角を

固定架台と可動式架台の月別太陽光発電量

(江別市での実験結果から推計、単位・kwh)

Table with 13 columns (months 1-12 and total) and 3 rows (Fixed 75°, Fixed 90°, Movable 20/60°).

※可動式は4-9月は20度、それ以外は60度に設定

事業は、経産局の委託を受けたほくでんエナジーが、ことし1月と2月に江別市内で実施した。

道経産局、ほくでんエナジーなど実証結果

えられる可動式架台と、33度、45度、55度、65度の固定架台パネルをそれぞれ設け、発電量を調べた。

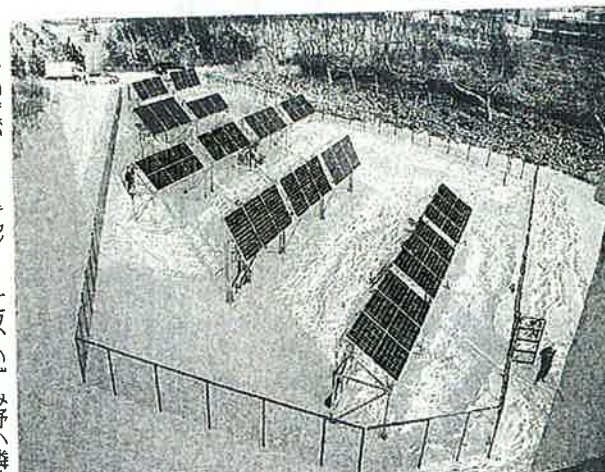
この結果から年間の発電量を推計すると、75度

では869kwh、90度では744kwhに達し、積雪寒冷地の道内であつた

ベランダ型は、外壁改修や新築時の設置が主だが、架台設置や補強、設置に伴う防水工事が必要

一方、いずみ野小隣接地での実験では、冬場は傾斜角を45度以上にすると、積雪の影響を受けにくいことが判明。

経産局では、今回の実証によって道内外で年間発電量に差異はないことが確認できたとの見方から、札幌を中心に道内各地でセミナーなどを開催し、中小の工務店に対して実証結果を広く周知したい(環境・リサイクル課)と説明。



江別市役所では75度と90度の2タイプのパネルで実験した

いずみ野小(江別)隣接地に設置した可動式架台と固定架台